

九州農政局管内の 有機農業取組事例

令和5年4月
九州農政局

も く じ

県名	所在地	番号	農場名	有機農産物
福岡県	広川町	No.1	古賀俊夫	びわ
福岡県	桂川町	No.2	合鴨家族 古野農場	水稲、野菜
福岡県	うきは市	No.3	(株)新川製茶	茶
福岡県	赤村	No.4	株式会社鳥越ネットワーク	水稲、トマト、ミニトマト、セルリー
福岡県	豊前市	No.5	株式会社エフワイアグリ	ベビーリーフ
福岡県	宗像市	No.6	伊世いちご畑	いちご
福岡県	糸島市	No.7	(株)すまいるファーム	水稲、かんしょ、きくいも等
佐賀県	みやき町	No.8	株式会社サガンベジ	葉物野菜
佐賀県	嬉野市	No.9	きたの茶園 北野秀一	茶
佐賀県	鹿島市	No.10	佐藤農場株式会社	柑橘類
佐賀県	唐津市	No.11	ささき農園	自然薯、ごぼう、ゴーヤ、さといも
長崎県	雲仙市	No.12	農業生産法人吾妻旬菜株式会社	露地野菜
長崎県	雲仙市	No.13	ナチュラルファーマーミング合同会社	オリーブ
長崎県	南島原市	No.14	株式会社長有研	露地野菜
長崎県	南島原市	No.15	農事組合法人供給センター長崎	たまねぎ
長崎県	南島原市	No.16	農事組合法人ながさき南部生産組合	ばれいしょ、たまねぎ
長崎県	佐々町	No.17	有限会社北村製茶	茶
長崎県	五島市	No.18	(株)アグリ・コーポレーション	かんしょ、大麦、小麦
長崎県	五島市	No.19	農事組合法人ごとう茶生産組合	茶、レモングラス

も く じ

県名	所在地	番号	農場名	有機農産物
熊本県	南阿蘇村	No.20	喜多いきいきくらぶ	水稻
熊本県	合志市	No.21	うさぎ農園	野菜
熊本県	山都町	No.22	株式会社清和ミネラル会	ベビーリーフ
熊本県	山都町	No.23	Y A S K I F A R M	にんじん、小カブ、ピーマン
熊本県	宇城市	No.24	株式会社うさうき森田農場	ン
熊本県	御船町	No.25	有限会社くまもと有機の会	水稻、野菜
熊本県	芦北町	No.26	有限会社鶴田有機農園	水稻、にんじん、ばれいしょ
熊本県	宇城市	No.27	(有) 肥後あゆみの会	柑橘類
熊本県	山都町	No.28	西山幸司	トマト、ショウガ、かんきつ等
熊本県	山鹿市	No.29	いとう農園	にんじん、ばれいしょ、にんにく等
大分県	宇佐市	No.30	さとう有機農園株式会社	いちご
大分県	宇佐市	No.31	有限会社宇佐本百姓	野菜
大分県	臼杵市	No.32	株式会社ohana本舗	水稻
大分県	臼杵市	No.33	大分有機かぼす農園株式会社	野菜
大分県	臼杵市	No.34	株式会社高橋製茶	かぼす
大分県	豊後大野市	No.35	ウジャマー農場	茶
大分県	由布市	No.36	小松台農園（竹林諭一・竹林千尋）	水稻、麦・大豆
大分県	宇佐市	No.37	(株) 安心院オーガニックファーム	野菜
				ベビーリーフ、パクチー、リーフレタス等

も く じ

県名	所在地	番号	農場名	有機農産物
宮崎県	日之影町	No.38	一心園	茶
宮崎県	五ヶ瀬町	No.39	株式会社宮崎茶房	茶
宮崎県	綾町	No.40	有限会社松井農園	野菜
宮崎県	西米良村	No.41	黒木美智子	水稻
宮崎県	都城市	No.42	有限会社徳重紅梅園	梅加工品
宮崎県	えびの市	No.43	株式会社本坊農園	水稻、オクラ、カボチャ、 ピーマン、キャベツ、ほう れん草
宮崎県	宮崎市	No.44	小浦製茶	茶
宮崎県	新富町	No.45	合同会社オーガニックファームZERO	米、にんじん、ばれい しょ、にんにく等
鹿児島県	霧島市	No.46	霧島製茶株式会社	茶
鹿児島県	鹿児島市	No.47	有限会社かごしま有機生産組合	野菜
鹿児島県	鹿児島市	No.48	農業生産法人そのやま農園(株)	野菜
鹿児島県	出水市	No.49	吉田裕介	ばれいしょ、さといも、か んしょ、たまねぎ
鹿児島県	日置市	No.50	ジャラン農園	にんじん、だいこん、かん しょ、さといも
鹿児島県	屋久島町	No.51	モッチョム農園	ばれいしょ、かんしょ、ウ コン
鹿児島県	いちき串木野市	No.52	大久保農園	柑橘
鹿児島県	屋久島町	No.53	(有) 屋久島八万寿茶園	茶

<基本情報>

所在地：福岡県八女郡広川町

<農場概要>

- びわ45a、全て有機 J A S 認証を取得
- 他に桃（ハウス、露地）、ぶどう（雨よけ）、ブロッコリー、水稻を栽培（びわ以外は非有機）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 以前は、町内に4名のびわ農家がいたが離農等により減少し自分一人となった。
生産量では他産地との競争に勝てないため、差別化が必要と判断し、食の安全安心に着目し有機栽培を開始。
- **平成17年（2005年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 販売先の大半は J A だが、有機農産物取扱業者へも販売。
有機農産物取扱業者への販売量が徐々に増えており、現在では3割近くを占めている。
- 「有機びわ」は、化粧箱（500g）とパック（250g）の2種類で販売。
- いわゆる規格外品は殆ど発生しないため、果実を使用した加工品はないが、葉を使用した「有機びわ茶」を有機加工 J A S 認定事業者に製造委託し、販売。
- 全て国内販売のみで輸出は行っていない。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
害虫は、管理作業で圃場巡回する際に捕殺。
- 雑草対策
草刈り機による除草に加えて補助的に人手による除草。
- 土づくり
米ぬかに籾殻を混合した自家製有機堆肥による施肥。

<苦労しているところ>

- 害虫は、捕殺で行っているため大変な手間が掛かっている状況。
- 除草作業は、乗用草刈り機を使用できないため背負い式の草刈り機で行っており重労働。現在、乗用草刈り機を使用できるように下枝払いにより樹形を整えているところ。

<現場の課題>

- 今後も有機農業を継続していくが、有機 J A S 認定取得後の毎年の継続審査費用が結構かかるため、国で支援いただきたい。
- 消費者の認知度を高めるため小売店にオーガニック売場の設置を義務化することで、消費が増え、生産も増えるという好循環が生じるのではないかと。



<基本情報>

所在地：福岡県嘉穂郡桂川町

<農場概要>

- 12.5ha（有機JAS認証未取得）
- 有機農法により水稻、各種野菜等を生産
- 労働力8名（古野氏の家族7名、研修生1名）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 学生時代に有吉佐和子著「複合汚染」を読み影響を受け、雑草防除と地力維持に関心を持ち、完全無農薬の有機農業を目指すことにした。有機農業は環境に優しく、健康によい。家族が食べるために作ることが最大の目的であり、同じものを消費者に届けている。

<販売について>

- 基本的に近隣の消費者へ年間契約の直接販売が多いが、そのほかにインターネット販売等も行っている。
- 農業は成長するとともに、維持することが大事であると考えることから、変化に応じて様々なことに対応しながら、地元の人々に直接販売することを行って行きたい。



【お問合せ先】TEL.0948-65-2018

ホームページ<http://aigamokazoku.com/index.html>

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害、除草対策
水稻については、1988年から開始した「合鴨農法」の体系化を実施することにより、害虫の駆除と除草を行っている。
野菜栽培については、水田輪作による防虫、耐病性の強い品種の作付け、高畝栽培、排水対策を実施することにより病虫害対策を行っている。また、独自に開発した除草農機具（ホウキング）を使用し除草することで、除草時間の大幅な削減を実現している。
- 土づくり
自家製の堆肥（籾殻、鶏ふん、牛ふんを堆肥舎でかくはん・発酵）を使用することで土づくりを行っている。（野菜畑については、10a当たり5tを投入）
このことにより、**慣行栽培と同程度の収量を確保**している。

<苦労しているところ>

- 有機農産物の消費者等への周知。

<今後の対応>

- 地域の農業を引継ぐ者が少なく、農地の管理委託が増え、今後、自分の経営面積は増えると予想されるが、できる限り家族で有機農業を維持していきたい。

<現場の課題>

- 担い手や労働力の確保と地域の活性化。

<その他>

- 有機農法講座を実施しており、昨年は約30名の受講者があった。また、有機農業を志す研修生（1～2名）を毎年受入。

<基本情報>

所在地：福岡県うきは市浮羽町

<農場概要>

- 茶圃場7.2ha、全て有機 J A S 認証を取得
- 常時雇用2名、臨時雇用5名



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和30年代に祖父が茶生産を開始。引き継いだ両親が農薬散布などの影響で体調不良となったことから、昭和48年に思い切って農薬を一切使用しない栽培方法に切り替えた。

- **平成13年（2001年）有機 J A S 認証制度の農産物及び加工食品の認証を取得**



<販売について>

- 荒茶の3割が卸販売、残り7割は自社で商品化し、自社販売店の駅、百貨店、インターネット及びイベント等で販売。
- 平成30年の売上高は**平成26年に比べ約1.5倍に伸びた。**
- 19品種を栽培しているが、5品種はブレンドせずに単品商品として販売。
- 平成28年から輸出にも取り組み開始。輸出先は、スイス、ドイツ、オーストラリアで輸出量も年々増加傾向。
 今後は、商品の生産量にもよるが、少しずつ輸出先、輸出量を増やす方向。
- 単収は、慣行栽培の約半分、生葉で300kg～350kg程度。
 病害虫の被害を受けた茶葉は、紅茶などの原料としている。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
 昭和48年当時は、にんにくや木酢を害虫予防として散布していたが、現在は何も行っていない。
- 雑草対策
 春や秋は草刈り機などで刈り取っているが、夏場はつる性の雑草など、根や球根を1本1本手取りしている。
- 土づくり
 堆肥に微生物を入れて発酵させる「ボカシ肥料」を手作業で施している。

<苦労しているところ>

- 夏場の手作業による草取りが一番大変だが、お客様に安心して購入して頂くためキッチリやる必要がある。

<今後の展開>

- 現状を維持していくことが大切である。新しいことにも挑戦したいが、今のところは、小規模な機材を揃え、古民家空間を利用してお客様に提供できるスタイルを検討中。



URL : <https://ukihanoyamacha.com/>

TEL:0943-74-3113

＜基本情報＞

所在地：福岡県田川郡赤村

＜農場概要＞

- 2.5ha（**全て有機JAS認証**）
- 水稻、トマト、ミニトマト、セルリー等を生産
生産したトマトを原料に加工品を製造・販売



＜有機農業に取り組むきっかけ＞

- 人間・環境に優しい農業の創造とこのような農業を広く社会にアピールし、農業の社会的役割や農業者の社会的地位の向上に貢献すること、地域の生産の核となり地域再生・地域雇用を生み出し地域のモデルとなることを目的として有機栽培を開始。

＜販売について＞

- 販売する全商品が有機JAS認証品。生産したトマトを使用し加工品（ケチャップ等）を製造・販売も行っている。
- 有機JASの小分業者認証を受け、販売先からの要望に沿った形態で自社包装対応を行い、好評を得ている。
- 販売先はグリーンコープを中心に、イオングループ等約20社と直接取引（販売先への品数・ロットについては、連携を組む生産法人からの仕入れにより確保している）。
- 有機セルリーは、大手スーパーから直接取引のオファーが入るまでになっている。
- 経営管理ソフトを導入し、生産コスト等を管理することで、販売先との価格交渉を実施している。



＜病害虫対策・除草対策・土づくり＞

- 病害虫対策
病虫害の対策としては、有機農産物にも使用可能なBT剤、土壌改良剤、天敵を使用。
- 雑草対策
施設内ではマルチシート、土壌消毒時に土壌改良剤を合わせて使用することにより雑草の生育を抑止。
- 土づくり
牛糞の使用割合を押さえた堆肥（牛糞2：草8）を使用して土作り。5年程度で病気の減少と**慣行栽培と同程度の収量達成**。

＜苦労しているところ＞

- 資材費、運送経費等の抑制。

＜現場の課題＞

- 資材・人件費等の物流経費高騰への対応。
- 地域の耕作放棄地増加等の荒廃農地対策。

＜今後の対応＞

- 生産技術体系を確立し、安定的な生産を確立するとともに、次世代へ引き継げる経営の確立。
- 生産規模を拡大し、収益の向上を目指す。（県単事業を活用しハウスを増設予定）

【お問合せ先】TEL.0947-62-3349

会社ホームページ<https://www.torigoe-network.com/>

<基本情報>

所在地：福岡県豊前市八屋505-2

<農場概要>

- ベビーリーフ80a、全て有機農業の取組

<経営理念>

「未来にあたらしい種をまく！」



<有機農業に取組むきっかけ>

- 食の安全・安心は重要であり、消費者の方により良い国産農産物を提供したいという思いとともに、当初から栽培水準を高く持つことにより、付加価値と収益性の両立を図ることを目的として開始。



2020年 有機 J A S 認証取得を目指す！

<販売について>

- 当初から、業務提携先でもあり、有機栽培を実践している(株)果実堂(熊本市)のノウハウを受け、ハウス栽培全て有機栽培を行っている。
- 日照や散水のデータ管理を基に、年間12サイクルで生産することにより収量を確保している。
- (株)果実堂を通じてスーパー等へ販売している。

【お問合せ先】TEL.0979-33-7885

会社ホームページ <https://fyagri.jp/>

<病害虫対策・除草対策>

- 病害虫対策
ハウスの外側には防虫シート、防虫ネットにより対策を施しているほか、病害虫が発生しそうな近隣の土地の草刈りを行うなどの対策を行っている。
- 雑草対策
水管理の徹底が重要であり、どのタイミングでどのくらいの水分量が雑草の生育を抑えられるのか、**土壌分析を行いデータ化し灌水マニュアル**を作成している。

<苦労しているところ>

畦畔などの雑草の管理 有機資材の選定

<今後の対応>

- 現在20棟のハウスを、将来的には200棟まで増設する計画。併せて集出荷貯蔵施設の整備を計画中。



<基本情報>

所在地：福岡県宗像市

<農場概要>

- 有機 J A S 認証ほ場90a（いちご「あまおう」）
- 従業員：6名（うち夫婦、通年雇用1名、期間雇用3名）

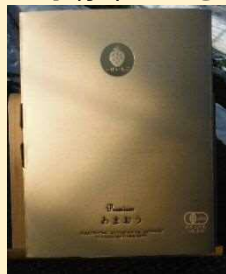


<有機農業に取り組むきっかけ>

- 2010年に就農した当初は、いちごの慣行栽培に取り組んでいたが、土壌分析を行った際にリン酸値が高かったため、これを機に化学肥料を減らして栽培することを突き詰めた結果、5年前に有機栽培へ移行。
- **令和2年（2020年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- ネット販売を中心に、空港、駅、百貨店及び近所の道の駅で販売。
- 中国の貿易会社を運営していた経験を活かし、可能な限り中間事業者を省き、直接現地（アジア圏）の業者と取引を行うことで、通常、朝収穫したものが現地の百貨店に届くまで3日を要するところ、翌日には届くことが強み。
- 宗像市のふるさと納税返礼品として登録。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
土着天敵（ギフアブラバチ等）、土着菌（放線菌等）により生態系バランスを保ち、害虫や病気が増えにくい状態を作る。
- 土づくり及び雑草対策
森林に囲まれた腐葉土による土着菌が自然と増える環境を活用し菌を増殖。毎年5月の収穫後にいちごの茎葉と雑草と一緒に緑肥としてすき込み、米ぬかを投入し、ぼかし肥料として使用。



<苦労している（した）ところ>

- 蛾（ヨトウムシ）の幼虫をピンセットで捕ること。
- 「あまおう」の有機栽培は、殆ど前例が無かったため誰にも教わる事が出来ず、試行錯誤し手探りで、有機栽培を確立した。

<今後の展開>

- 輸出はアジア圏に限っているため、アジアの枠を超えて世界各国への輸出拡大を図りたい。

【お問合せ先】TEL. 090-9653-5300

ホームページ：<https://isefields.work/index/>

<基本情報>

所在地：福岡県糸島市

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場11ha（水稻、かんしょ、きくいも、しょうが、エディブルフラワー）
- 従業員：10名（代表含む社員、パート）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 10年近く前、先代の代表が体調を崩したことを機に健康に良い食べ物を自らが作りたいとの思いで、本業とは別に有機栽培にて農業を開始。その後、農業生産法人を設立。
認証取得費用がかかるため有機JAS認証取得せずに有機栽培を行っていたが、法人化後、費用の目処がついたことで、**平成30年（2018年）に有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 県内の小売店、飲食店、JA直売所を中心に販売。
一部、消費者への直接販売やネットショップによる販売。
- ほとんどが県内流通のため、配送は基本的に自社の車を使用。

<農福連携について>

- 市内の障がい者福祉施設と連携し、障がいのある方に、農作業に従事いただく農福連携に取り組んでいる。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
土壌の栄養バランスが良くなるよう健全な土づくりを行うことにより、病虫害被害に遭わない強い農作物に育つことを大切にしている。
- 雑草対策
草刈り機及び手作業による除草。
- 土づくり
植物残渣（おからやお茶がら等）や有機JAS規格で使用が認められた肥料及び土壌改良資材を施用。



<苦労しているところ>

- 病虫害被害が発生した場合、即効性のある化学合成農薬の散布が出来ないため、収量がかなり減少する年がある。



<今後の展開>

- 水はけが悪いほ場があり、収量がなかなか安定しないため、排水対策や土づくりに努め、収量を安定させたい。
また、現在、栽培している作物を原料とした加工品の販売に取り組みたい。



【お問合せ先】TEL. 092-329-0021

ホームページ：https://www.smilefarm.co.jp/

<基本情報>

所在地：佐賀県みやき町

<農場概要>

- 施設栽培：施設32棟 約1ha 葉物野菜18品目(ほうれん草、小松菜等)
- 露地栽培：15a 葉物野菜4品目(夏場のみ)
- 従業員9名(臨時雇用を含む。)



<有機農業に取り組むきっかけ>

- サラリーマン時代に長時間労働等により体調不良となった際に、食の大切さを痛感。有機農業に取り組もうと決意し、奈良県宇陀市の有機農家に飛び込み栽培技術を習得。

- **平成22年(2010年)に有機JAS認証を取得**

<販売について>

- 販売する野菜全てが有機JAS認証品。うち、約2割強を輸出。
- 一つのハウスの中で多品目を混作・ローテーション ⇒ 周年で品数を確保 ⇒ 付加価値を高め定額販売 ⇒ 安定収入を確保。



【一つのハウス内で多品目栽培】



- 1パックに5種類のオーガニック野菜を入れたオリジナル商品等を販売し販路拡大。「複数のオーガニック野菜をそれぞれ買うのは大変」といった消費者ニーズを反映。
- 平成23年に**Amazonの野菜セット部門でベストセラー商品ランキング第1位**を獲得。

【お問合せ先】TEL.0942-89-1559

会社ホームページ <http://www.saganvege.com>

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**：防虫テープを使用しているだけで、有機JASで認められた農薬も使用していない。
- **雑草対策**：は種前に2週間程度シートを被せ、土壌を高温殺菌。ハウス外の雑草対策で、羊を2頭飼養。
- **土づくり**：有機肥料は、**植物性由来のみ**を使用し、おから、米ぬか、油粕、粃殻などを原料とする自家製のものを使用。



【防虫テープ】



【植物性由来有機肥料】

<現場の課題>

- 近隣が水田地帯であるため、ドリフトによる農薬の影響を受けないように緩衝地帯を設けている。
- 規模拡大に当たって土地の確保が難しい。

<今後の展望>

- GFPに登録し、更なる輸出拡大を図ることにより、総販売額に占める輸出割合5割を目標に取り組む。
- 将来的に条件が整えば、気象条件等を考慮し、安定生産のため中山間地における栽培も視野に入れている。



<基本情報>

所在地：佐賀県嬉野市嬉野町

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場4ha（茶）
- 蒸し製玉緑茶、煎茶、ほうじ茶、粉末緑茶、紅茶を使用した10商品を製造販売。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 当茶園は、約30年前、祖父が茶本来の味と茶の効用を追求し、当時では珍しかった有機栽培に転換。
- 面積を2.7ha（H14）から4ha（R2）へ拡大
- **平成18年（2006年）に有機JAS認証取得。**



<販売について>

- ネット販売と量販店で生産量の5割を販売。
- 蒸し製玉緑茶をはじめ、煎茶、粉末緑茶、ほうじ茶、及び紅茶を製造販売。



<嬉野茶のPR活動>

- 地元の茶農家や旅館、窯元からなる「嬉野茶時（うれしのちゃどき）」の活動に参加。イベント「嬉野茶寮（うれしのさりょう）」では、地元老舗旅館にて、肥前吉田焼の茶器により、自らお客様に茶を淹れてもてなす。

【お問合せ先】 TEL : 0954-42-2358
ホームページ : <https://kitanochaen.com/>

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
地域の野草（よもぎ・どくだみ・杉・松・こしょう）などを熟成させた薬液を使用。
薬液は忌避効果が高く、害虫もほとんど殺さないため、地域の生態系への影響が少ない。
- 雑草対策
除草剤を使用せず、人力のみ。
- 土づくり
地域の副産物である米ぬか、おから及び水飴の絞りかすなどをブレンドし、520種の有用菌（好気性微生物）により発酵させた有機ぼかし肥料を使用。



<苦労しているところ>

- 人力での除草作業。

<今後の展開>

- 有機農業技術をさらに高め、収穫量の安定と品質向上を目指す。
- 多くの方にお茶を楽しんで頂き、地域の発展に結びつくような幅広い活動を行う。



<基本情報>

所在地：佐賀県鹿島市

<農場概要>

- 経営面積：33ha（約10haは改植後未収穫期間中）※全面積有機栽培
- 栽培品目：柑橘類（温州みかん、レモン、ポンカン、だいたい等）
- 従業員14名(代表を含む。)



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 慣行栽培では、自身も含め篤農家ほど農薬散布が多く薬害と思われる病気や体調不良に見まわれる実態を目の当たりにし、農家自身が健康でなければならないと考えたこと。
- 昭和63年に全面有機栽培に転換し、有機JAS制度が始まった**平成13年（2001年）から有機JAS認証**を取得。

<販売について>

- 生果は国産オーガニック専門店、生協パルシステム等に販売している。有機の引き合いは強く、注文に応じきれないほどである。インターネットで、「鹿島みかん村」としても販売している。
- 生果のほか、**ジュース、ドライフルーツ、ジェラート等の加工・販売**も行っている。



【お問合せ先】TEL.0954-62-8334

会社ホームページ <https://mikan-satou.jp/>

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- **病虫害対策**：「有機」表示のできる農薬として、殺菌剤のイオウフロアブル及びI Cボルドー66D、殺虫剤のマシン油を使用。黒点病菌の発生源の枯死枝を適確に除去し、園外で処理。
- **雑草対策**：草の種を撒き、やわらかい春草を増やして棒で倒すことで、芯の硬い夏草の発生を抑える「草倒し農法」を実践。草があることで、土壌環境が改善され、紫外線が直接地面に当たらないため微生物が増え、くもなど昆虫が住む生態系が形成され、食物連鎖の中で大量の害虫発生も抑えることができる。
- **土づくり**：発酵鶏糞や発酵させたみかんの絞りかす、枯れ草等を利用した土づくりを実施。



<現場の課題>

- 輸送コストの高騰、JAS認証更新費用等の経費が経営を圧迫している。
- 収穫期には作業員を増員する必要があるが、パート雇用者も高齢化しており人員確保が難しくなっている。

<今後の展望>

- 現状では、生果の引き合いは強く、今後も離農する農家の農地を引き受け経営規模の拡大を目指す、経費と収益の関係もよく見ていく必要がある。

<基本情報>

所在地：佐賀県唐津市浜玉町

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場約1.6ha（自然薯、ごぼう、ゴーヤ、さといも）
- 従業員：3名（本人、通年雇用2名。繁忙期は別途3名程度期間雇用）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 生き方を見つめ直そうと海外を旅した際、インドネシアの島で高潮被害を目の当たりにした。
現地の方から地球温暖化の影響によるものだと知らされたことから、実家の田畑で環境に優しい農業を始める覚悟を決め、2002年に減農薬農業に取り組んでいた祖父に弟子入り。
就農から5年程度は、化学農薬・化学肥料の使用を抑えた栽培を行い、その後、化学農薬・化学肥料不使用栽培を開始。
- **平成24年（2012年）に有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 販売先はミシュラン掲載店を中心に東京、京都のホテルや飲食店、百貨店、高級スーパー。

（納品先のミシュランの星の数の合計は100を超えてきました！）

1割は、ネットでの直接販売。

<首脳夕食会への食材提供>

- 2019年G20大阪サミットの首脳夕食会の食材として、当園の「自然薯」、「太閤ごぼう※」が選ばれた。
※「唐津太閤ごぼう」で商標登録済（佐賀県唐津市で生産されるごぼう）



<土づくり>

〔適地適菜〕 ささき農園の自然薯畑は天然の自然薯が自生している山を切り開き畑にしています。この山の豊かな自然を壊さないように土づくりには3年の月日をかけ草を育て、1年目、2年目と違う種類の草が育ちその土地が育てた、その土地が必要とする草をすき込むことで地力のバランスを整えていきます。

<病害虫対策・除草対策>

マルチを利用することでアブラムシやスリップス類などの害虫や病気の発生を抑制するとともに、雑草防除も行っている。

作物の前作に辛子菜を栽培し、全量鋤き込み、土壌炭素率を上げ微生物の活動を促すと共に、辛子菜の辛味成分による殺菌作用を利用し土壌病害や線虫を抑制。

<苦労したところ>

就農時から主力商品として考えていた自然薯の有機栽培を始めてから7年近くは、保存中や定植後の腐敗が発生した。それを克服し栽培方法を確立することに苦労した。

<今後の展開>

取引先には、ミシュランの星を得ている飲食店も多く、星の数の合計は100を超える。今後とも、このような評価が高い飲食店との取引を増やし、星の数200超えを目指す。



【お問合せ先】TEL. 090-5293-2502

ホームページ：sasakinouen831.com/

有機農業の取組 No.12 農業生産法人吾妻旬菜株式会社 令和元年10月現在

<基本情報>

所在地：長崎県雲仙市

<農場概要>

- 全て有機 J A S 認証ほ場 13ha（露地野菜）
- 地元の運送会社と連携し、冷蔵トラックで輸送。
高い鮮度を維持して有利販売。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 30年ほど前に3名で無農薬栽培を始め、徐々に仲間が増えていき、有機農業研究会を発足。その後、更なる飛躍を目指すために、平成19年に「吾妻旬菜株式会社」として法人化。
- **平成13年（2001年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 販売先は法人化前から取引がある関西方面がほとんど。
- 地元の運送会社の冷蔵トラックで搬送することで、翌日には消費地に到着し、**高い鮮度を維持した状態で有利に販売**することが可能。
- 根菜類をある程度のロットをまとめて送ることで、運送経費を削減。

<収量・品質について>

- 手間をかけても慣行栽培に比べ7～8割程度。
- 作物の生育に最も適した生育環境を作りあげる工夫をして、品質の向上を図っている。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
周辺の雑草管理、高畝による排水対策、株間を広くし風通しを良くする、などにより病害虫の発生を抑制。
- 雑草対策
太陽熱を利用した土壌消毒、管理機による除草、黒マルチによる雑草対策を実施。
- 土づくり
地元ブロイラー飼養農家から出る鶏糞に米ぬかを混ぜた堆肥の投入。豆科植物やソルゴーなどの緑肥の導入。

<苦労しているところ>

- 労働力の不足。
- 近隣ほ場でのヘリ防除からのドリフト対策。

<現場の課題>

- 輸送費が高騰することへの対応。

<今後の対応>

- 地元での販売先の確保、消費者との交流。
- 地元住民への有機農業の理解促進。



【お問合せ先】TEL.0957-38-6710

会社ホームページ <https://www.azumashunsai.com/about.html>

＜基本情報＞ 所在地：長崎県雲仙市吾妻町

＜農場概要＞ 有機 J A S 認証ほ場約2.2ha（オリーブ：600本）
従業員：代表含む3名（別途、ほ場での除草作業や
加工作業を福祉施設に依頼（農福連携））



＜有機農業に取り組むきっかけ＞

- 農業関連各種機械装置の開発を行う会社を経営しており、小豆島のオリーブ産地から搾油機のメンテナンスを依頼され、産地を訪れるうちに栽培に興味を持ち、会社の農業部門としてオリーブ栽培を開始（2008年）。
平成28年（2016年）、ナチュラルファーマーミング合同会社として分社化。海外では、オリーブ葉は医薬品として販売されていることから、健康を意識し当初から葉に特化した有機栽培を実践。
- **令和元年（2019年）有機 J A S 認証取得（農産物、加工品）。**



＜販売について＞

- 県内のテーマパーク、空港、駅、直売所等、地元での販売。その他、食品卸やネット通販。
顧客拡大を図るために県内外の百貨店で
の催事出展。



＜取扱商品について＞

- リーフ（葉）を製品化。
【リーフティー（パック、パウダー）、ノンアルコール飲料、アイスクリームを主とし、副次的に生産したオリーブオイルも販売】

＜病虫害対策・除草対策＞

- 毎日、園地を巡回し、剪定、虫とり、草刈りを実施。
樹間が広く、除草は、乗用管理機が基本で樹木の周辺は手刈り。
また、病虫害対策として、にんにくや唐辛子のエキスを散布。

＜土づくり＞

- 牡蠣焼き小屋から分けてもらった牡蠣殻を、1年ねかせて散布。



＜苦労している（した）ところ＞

- 農業参入する際に50a以上の農地を必要としたが、農地が見つからず、耕作放棄地を借り受け。ほ場は、元々レンコン畑だったため、排水や土づくりに重機による客土造成を行った。
- 自社農園、加工場による安心安全、品質・衛生管理の徹底。

＜今後の展開＞

- 当初、自社以外オリーブリーフ茶を製造・販売する所はなかったが、最近、他産地も参入。他産地のものには「苦くておいしくない」と評価されたものもあり、当社の販売にも影響を受けたため、差別化に向け、基準（例えば、残留農薬200項目未検出、苦み成分でもあるオレウロペインの含有量等）を策定し、取り扱うことを検討中。
- 長崎雲仙を平和（有機・笑顔）のオリーブの町にする。
- 日本唯一の有機オリーブのプラットフォームとなる事を目指す。

【お問合せ先】TEL. 0957-51-4554

ホームページ：<https://unzen-naturalfarming.com>

<基本情報>

所在地：長崎県南島原市

<農場概要>

- 有機 J A S 認証ほ場 約 6 ha（露地野菜）
- 露地野菜・米・柑橘等を自社農場と合わせて、正会員48名・協力会員 6 名による有機農業・特別栽培での生産、産地直送販売。



<有機農業に取組むきっかけ>

- 消費者の安全・安心な食生活の実現、生産者自身の健康、自然を大切に、農薬及び化学肥料の使用を極力減らすことを目的とした研究会を設立。その後、直販による販売活動を開始し、平成3年（1991年）に(株)長有研を設立。
- **平成13年（2001年）に有機 J A S 認証及びAFASシステム認証取得。**

<販売について>

- 関東を中心に生協、有機農産物専門流通業者、自然食品店、消費者グループ等へ出荷。多様な出荷先の確保により経営面でのリスクを分散。
- 全取扱量の約 9 割が取引先との契約栽培で、その年の気象や生産コストと収量の実情を常に情報交換を行い、相場の影響を受けにくい。

<収量・品質について>

- 化成肥料が投入出来ないため、全体的な収量は慣行栽培の 7 割程度。
- 会員間での栽培技術の統一、販売先のニーズに合った多様な品目、数量の確保が可能。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
たまねぎの苗床は、事前に太陽熱を利用した土壌消毒を実施。
- 雑草対策
ほ場周辺の除草はチップソーがメインであるが、イノシシ対策用のワイヤーメッシュ周辺は手作業。
- 土づくり
若手が中心となって作成した、独自の設計書によるぼかし肥料（外注）を施用し、土壌分析・診断と組み合わせた適正施肥を実施。

<苦労しているところ>

- 労働力の不足。
トラックドライバー不足による輸送費、資材等の経費の高騰。

<現場の課題>

- 除草対策が一番の課題。
人手不足・高齢化で規模拡大も難しい。

<今後の対応>

- 新規就農や若手農業者への有機農業の啓蒙による会員拡大。
一人一品目を有機 J A S 認証ほ場で栽培することを目指す。



【お問合せ先】TEL. 0957-86-5041

会社ホームページ <http://choyuken.jp/index.html>

有機農業の取組 No.15 農事組合法人供給センター長崎 令和元年10月現在

<基本情報>

所在地：長崎県南島原市

<農場概要>

- 有機 J A S 認証ほ場 約80a（たまねぎ）
- 露地野菜・米等の会員37名による有機農業・特別栽培での生産、産地直送販売。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 前身の任意組合を設立した昭和50年代から化学肥料、化学合成農薬に頼らない農業を実践。平成5年（1993年）農事組合法人供給センター長崎を設立。
- **平成22年（2010年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 九州・近畿・関東方面を中心に生協への出荷が約7割を占める。
- 会員間での栽培技術を統一し、販売先のニーズに合った多様な品目の導入、数量の確保が可能。
- 契約栽培により再生産可能な価格設定、通いコンテナの利用等によるコスト削減も行っている。

<収量・品質について>

- 有機栽培における長年の技術・経験を活かしながら、適性な品種選定を行い収量を向上。
- 使用する肥料を組織内で統一し、安定した品質の確保。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
たまねぎの苗床は、事前に太陽熱を利用した土壌消毒を実施。
- 雑草対策
手作業による除草。
- 土づくり
地域で発生する家畜糞尿等の資源を活用し、農家が堆肥を生産。春作収穫後、リゴー・加タリアなどの緑肥による土づくり。

<苦労しているところ>

- 会員（農家）はもちろん、集荷場での労働力の確保。
輸送費が高騰しているが、消費者の有機農業への理解も薄れ、価格への転嫁が難しい。

<現場の課題>

- 農薬のドリフト防止のための緩衝帯設置、除草作業、周辺農家への有機農業に対する理解促進。
輸送費高騰への対応、統一資材の一括購入によるコスト低減。

<今後の対応>

- 生き物調査、生物多様性を発揮した有機農業の啓発活動の実施。
販売先の開拓、高品質と輸送効率のためのロットの確保。



【お問合せ先】TEL. 0957-87-2926
会社ホームページ <http://www.jaganosato.jp/>

有機農業の取組 No.16 農事組合法人ながさき南部生産組合 令和元年10月現在

<基本情報>

所在地：長崎県南島原市

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場3.2ha（ばれいしょ、たまねぎ）、生産者5名
- 有機農業をはじめ、栽培期間中無農薬栽培、特別栽培レベルなど、消費者に信頼される、環境にも優しい栽培方法によってできた農産物を組合員139名で生産し、産地直送販売。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和50年（1975年）5名の青年農業者が産直を目指して発足。その後、長年に渡って続けられてきた近代農業をもう一度見直し、消費者に安全・安心な食べ物を供給するために、昭和62年（1987年）から県内の企業と協力して有機質成分の割合を高めてきた。
- **平成18年（2006年）に「有機農業推進法」が施行されたこともあり、同年、有機JASの認証を取得。**

<販売について>

- 全国の消費者グループや大手生協との取引が約7割を占める。契約栽培のため、価格変動が抑えられ、安定的な収益に繋がっている。
- 長崎県諫早市に直売所、福岡・鹿児島・長崎の生協36店舗にインショップを常設。

<収量や品質について>

- 収量は天候に左右されることが多い。
- 日々の作業記帳や作物ごとの栽培管理計画に基づく、徹底した品質管理を実践。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
品種の選定や作期の分散(有機以外では露地から施設へシフト)
- 雑草対策
人手・草刈り機による除草。
- 土づくり
土壌分析による適正施肥。
天然物質に由来する成分を用いた肥料、自家製堆肥の施用、緑肥作物の導入による土づくり。

<苦労しているところ>

- 労働力の不足。
- 近年、気象変動が激しく毎年異なるため、その対応が難しい。

<現場の課題>

- 運送料が高騰している。(価格へ転嫁できない)
- 作業記録の手間、有機用の作業スペースの確保、認証の費用負担が大きい。

<今後の対応>

- 新規就農者の確保とともに、青年農業者への有機農業の推進。



【お問合せ先】TEL.0957-84-3393

会社ホームページ <https://www.tentoumusi.net/>

<基本情報>

所在地：長崎県北松浦郡佐々町

<農場概要>

- 有機 J A S 認証ほ場約8.3ha（茶）
- 生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立



香港・米国での販売



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和44年から消費者からの「無農薬の茶を作ってほしい」という要望に応え、全茶園で、無農薬栽培を始め、昭和50年からは化学肥料・化学農薬を全く使用しない有機栽培による茶の生産・販売を開始。
- **平成13年（2001年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 有機栽培茶の特徴を活かして幅広く販路を拡大。
- 平成29年に香港へ輸出を開始し、同年、ニューヨークにおける店舗販売及びインターネット販売を開始し、海外展開。
- 消費者や取引業者に「茶摘み会」等を開催し、茶園の見学をしてもらうことで、有機栽培の信頼を高め顧客増加を実現。
- 顧客や企業が求める新商品の開発に取り組み「十宝草」のペットボトル等を開発。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
食酢の葉面散布により害虫の忌避を図り、茶樹の耐病性の向上を実現。
- 雑草対策
草刈り機や人手による除草。
- 土づくり
新・改植には、土壌分析を実施し、堆肥、稲わら、カヤを投入することで、茶園の排水性・物理性を向上。
施肥回数を慣行栽培より多くすることで、肥料の吸収率を向上。



<苦労しているところ>

- 除草作業や整せん枝による耕種的防除に長時間費やすこと。



<今後の対応>

- 地域に根ざした物づくり（茶づくり）が重要だと考えており、地域の農業者や商工業者と連携して組織（輸出グループ、有機グループ等）を作り、茶以外の農産物を含めた新たな商品開発や組織での販売を行うことで、地域を盛り上げて行きたい。

【お問合せ先】TEL.0956-63-2707

会社ホームページ：<https://www.kitamuracha.com/>

有機農業の取組 No.18 株式会社アグリ・コーポレーション 令和4年3月現在

<基本情報>

所在地：長崎県五島市三井楽町

(令和2年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール生産局長賞受賞)

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場40ha (かんしょ、大麦、小麦)
- 有機JAS認証のかんしょを加工し、赤ちゃん用のおしゃぶり干し芋等を製造



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 大阪市でコンサルティング会社に勤務し、将来、農業コンサルティングに従事したいと考えていたところ、義理の祖父の出身地である当地で農地を取得したことにより10年前に営農開始。
当初は、農薬や化学肥料を低減した栽培に取り組んでいたが、土づくりや生物多様性保全の取組、他産地との差別化、加工品の付加価値向上などを考えて、**平成30年(2018年)に有機JAS認証取得を開始し、令和2年(2020年)には、全ほ場の有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- かんしょ(青果用及び加工用)は、全国の小売店、飲食店、生協、通販会社、大手コンビニ等へ販売。大麦、小麦は、卸業者に販売。
- 高付加価値化として、かんしょを、赤ちゃん用のおしゃぶり干し芋「おしゃぶー」や小型犬向けの「ワンちゃんのおやつ」、和洋菓子用原料として「かんしょペースト」に自社で製造・販売。

<輸出について>

- 商社と協業し、国内で取引需要が少ないかんしょの規格品(S~2S)を、オーガニック需要が高い香港を中心に輸出。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
自社製造の天然由来の液肥や環境にやさしいBT剤を散布することで、病虫害被害を抑えている。
- 雑草対策
かんしょと麦の輪作を実施。春まで麦を栽培することにより夏季の雑草抑制に繋がり、機械除草の回数を抑えている。
- 土づくり
BLOF理論(生態系調和型農業理論)に基づき3年に1度の土壌診断を行い、必要なミネラル等を施用。
肥料は、有機JAS認定の元肥を中心に、自社製造の肥料を使用。

<苦労しているところ>

- 人口減少により、耕作放棄地が増加。
これまで10haに及ぶ耕作放棄地を再生したが、再生作業以上に苦労したことは、農地の地力向上に時間を要すること。



<今後の展開>

- 五島市三井楽町は、20年間で3割以上人口が減少。
耕作放棄地の解消、移住者・市民が働きたい会社づくり等により地域に貢献し、「オーガニックをプラットフォームとした街づくり」を20年後のビジョンとしている。

【お問合せ先】TEL. 0959-84-2989

ホームページ : <http://osyaburi.jp/index.php>

<基本情報>

所在地：長崎県五島市吉久木町

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場17ha（茶16ha、レモングラス1ha）
- 有機JAS未取得ほ場12ha（牧草）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 10年前に台風による潮風害（塩害）に遭い、茶葉がひどく褐変し、茶園が枯れたようになった。
知人である有機農業者の助力により、複数の発酵乳酸菌をブレンドした有機土壌改良資材をほ場に投入したところ、翌年には、茶園が回復。これを機に有機栽培に転換し、**平成28年（2016年）に有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 販売部門として平成13年に「有限会社グリーンティ五島」設立。
- 生産量の8割は、京都の茶商（海外向け取扱が主）へ販売。
- 生産量の2割は、ネット販売や島内のスーパー等小売店への直接販売。販売額の6割を直接販売が占める。
- 緑茶、紅茶のほか、自生するヤブツバキの葉と、緑茶をブレンドした「つばき茶」や「ハーブ（レモングラス）」を販売。



<収量等について>

- 有機栽培に取り組んだことにより、300kg/10aであった2番茶の収量が2倍近く獲れることもある。
- 有機栽培をはじめる前は、防除費に数百万円要していたが、現在は、10万円程度で済んでいる。

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
土づくりをしっかりと行うことで、作物が丈夫に生育するので、たまに食酢を散布している。
- 雑草対策
草刈り機及び手作業で除草。
- 土づくり
牛ふん堆肥及び豚ふん堆肥に発酵乳酸菌をブレンドし、茅を混ぜ込み、十分に発酵させ完熟した堆肥を10aに年3回（1t/回）程度散布している。



<苦労しているところ>

- 除草作業は、草刈り機及び手作業で行っているが、つる性の雑草は、なかなか根元から取れないところ。



<今後の展開>

- ネット販売等の直接販売の割合を増やしていきたい。
- 最近栽培を開始したレモングラスの他に、新たな作物栽培に挑戦したい。

【お問合せ先】TEL. 0959-72-4426

ホームページ：<https://greentea-goto.com/>